

長江家住宅
の歴史

長江家は代々呉服卸商を営んでこられました。文政5年(1822)に袋屋町(現・船鉾町)へ入町し、現在の北棟の場所で商売を始められました。元治元年(1864)、禁門の変による大火で家屋は全て焼失してしまいます。その後、長江家は慶応4年(1868)に北棟を再建し、明治8年(1875)に背面裏地で大蔵を移建しました。明治39年(1906)には、商売を拡大するにあたり、南側を買い足し、翌年新たに南棟を建てました。そして大正4年(1915)に、化粧部屋と浴室を新築しました。職住一体の京町家の佇まいを今に遺していることを評価され、平成17年(2005)に京都市指定有形文化財の指定を受けました。

屏風祭

祇園祭の夜に花をそえる屏風祭は、かつて各商家で秘蔵する屏風をみる一年に一度の機会でした。祇園祭の宵山に屏風を飾り、人にみせるという習慣がいつからはじまったのかは不明ようですが、古くから八坂神社の氏子町で祭りのときに屏風を飾り、その前で祭り見物が行われていました。現在では山鉾町に限定された行事として、屏風や鉾の模様、染織品、活け花などを展示しています。

参考：岩間香「屏風祭の変遷—近代から現代へ—」
(谷直樹・増井正哉編『まち祇園祭すまい—都市祭礼の現代』、思文閣出版、2008、4章)



令和5年度 主な展示品

| 番号 | 作品名 | 作者・由緒 | 種別 | 時代 | 展示場所 |
|----|----------|--------|----------|--------|------|
| 01 | 嵐山の図 | 長谷川玉峯 | 屏風 | 江戸時代後期 | ミセ |
| 02 | 四君子押絵張り | 作者不明 | 屏風 | 時代不詳 | ゲンカン |
| 03 | 漆器 | 長江家旧蔵 | 日用品 | — | ダイドコ |
| 04 | 草花寄せ描き | 菊池芳文一門 | 扁額 | 明治時代 | オク |
| 05 | 昭和初期の祇園祭 | 長江家旧蔵 | 16mmフィルム | 昭和初期 | 化粧部屋 |
| 06 | カワセミ | 長江家旧蔵 | 置物 | 明治時代 | 離れ座敷 |
| 06 | イチョウと鳥 | 田中松齋 | 掛軸 | 明治時代 | 離れ座敷 |

1階平面図

